

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

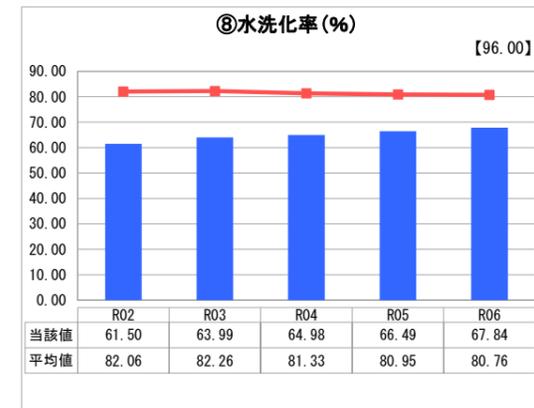
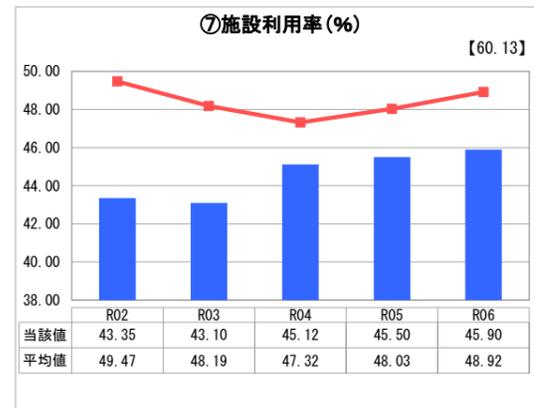
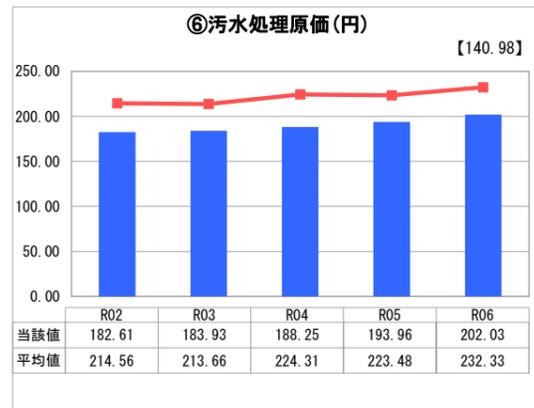
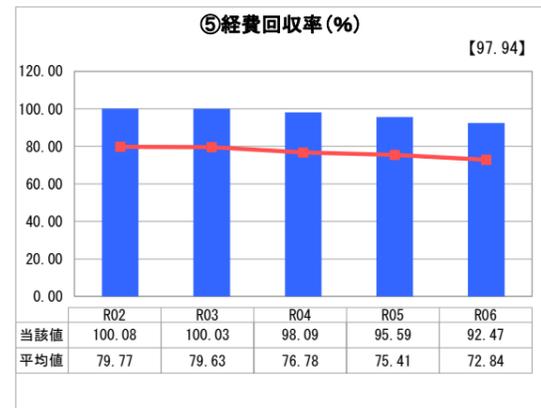
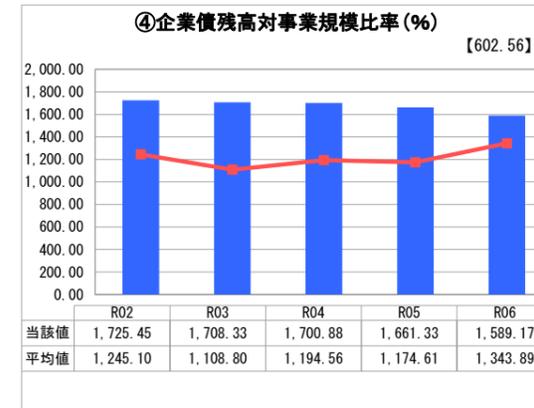
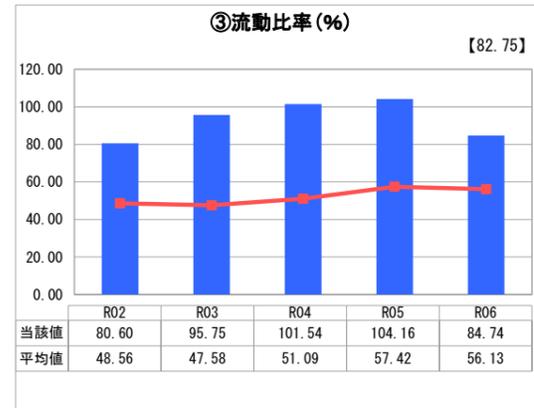
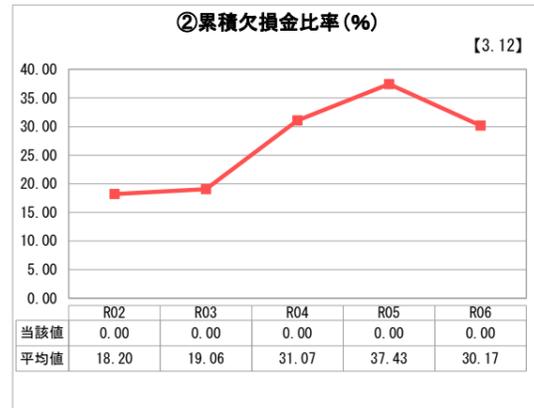
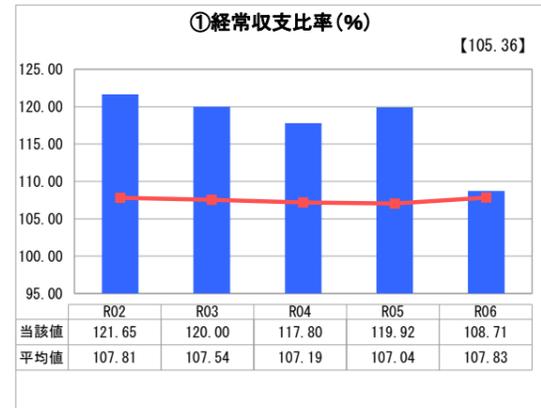
佐賀県 有田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	59.09	49.70	94.33	3,520

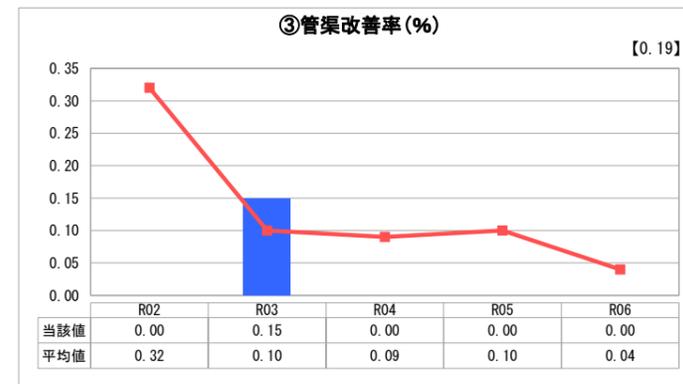
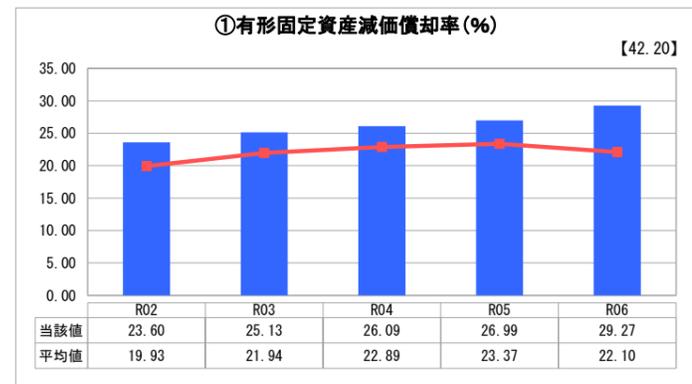
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,539	65.85	281.53
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
9,144	4.20	2,177.14

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
□	令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率については、前年度より10%以上下降している。更新工事や増設工事に伴う減価償却費の増加や単年度での修繕費の高騰、人事異動等による人件費の増加など要因は多岐にわたる。  
普及面積の増加に伴い、接続数が増加したが、相応分に処理費用や支払い利息等の経費が増加している。  
内部留保資金により、企業債の元金償還を行っており、ある程度の接続数が確保できるまでは当面の財源を確保するため、基準外繰入を行っているが、経費が増加傾向にある。  
R4に管路の普及工事を完了し、R5からR8にかけて処理場及びポンプ場の増設更新工事を実施している。経営分析を継続し、経営戦略、投資・財政計画などの更新を行っていく。  
② 累積欠損金については、損益計算書(P/L)の黒字化により発生していない。  
③ 流動比率の減少は、受益者負担金の調定額の減少に伴う未収金の減少のほか、元金償還に伴う現金の減によるもの。  
④ 企業債残高に対する営業収益については、増設、更新工事による企業債の新たな借入額が償還額より少ない事および接続増による営業収益の増加により減少している。一定の水準で推移していく事が想定される。  
⑤ 経費回収率については、100%前後とすべく数値であり、適正な料金設定を行い使用者に不なる負担を強いていないか、累積欠損金が発生しないよう経費削減の対策を行っているのかといった多様な要因が影響している。  
令和6年度については、料金収入の増加よりも修繕費の発生等による汚水処理費の増加が大きいため減少。  
⑥ 汚水処理原価が、施設建設による減価償却費の増加や修繕費等の増加により増加しており、有収水量の増加よりも大きいため増  
⑦、⑧については、人口減少や接続人口の増加はあるものの計画処理人口に達していない。今後の接続推進を図り、増加させる必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

平成13年度末日より供用開始しており、管渠の耐用年数は50年を設定している。  
現在、耐用年数を経過した管渠はないが、処理場やポンプ場については、機械設備等が耐用年数を経過しているものもある。  
ストックマネジメント計画により、更新工事を行っていくため、施設管理の最適化に努める。  
管渠については、全体の延長91kmに対し、令和5年度は管の更生工事を行っていない。  
今後、必要に応じ管の更生工事を行うため、その都度改善率が発生する。

### 全体総括

本町においては、下水道使用料金について、居住している地域により不平等とならないよう、特定地域生活排水処理事業および農業集落排水事業と同じ料金体系を採用している。  
流動比率は、資金残高に対し、修繕費や委託料、電力等動力費が変動した場合の影響が大きいため、次年度以降に対する不安要因がある。  
今後も資金確保に努めながら、設備の老朽化に対応するため、更新工事や企業債の元利償還など、財源確保を図る必要がある  
併せて、資金運用など柔軟な活用を行っていくことが求められる。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。